

「平山小学校のちくてん伝承活動の取組」

1 学校名

南種子町立平山小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計13人）

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

6月20日～9月20日 平山小体育館及び校庭

(2) 発表の場所・日時

平山地区・平山小小学校合同秋季大運動会（9月22日）

※ 荒天のため、体育館で実施

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

「ちくてん」（広田集落の踊り）

(2) 由来

「ちくてん」の由来については、様々な説がありますが、一説によると次のようなことが言い伝えられています。今から170年～180年昔、広田沖で琉球王国の船が難破しました。広田集落の人々は、異国の人を看護・救済し、船を修理するため現在の広田港沿いの阿武鋤川上流へと運びました。

その頃の広田集落では、岩穴（岩肌に横穴を掘り、その中で火をたき穴全体を温めた後、岩の中に入り、入り口にふたをして体を温めるという寒い日の憩いの場、現在のサウナに似ている）を造っていました。岩穴の完成の祝賀の席に乗組員たちも招待され、宴は盛り上がりました。その際、乗組員たちが感謝の気持ちを込めて踊ったと伝えられているのが「ちくてん」です。その踊りを見た広田の人々は大変気に入り、踊りを教えてもらいました。しかし、歌については言葉が違うので、耳で聞いたままを日本語に置き換え歌ったことから、単語としては分かるものの、前後を考え合わせても意味が通じないままに歌い継がれています。

(3) 構成等

ちくてんは、先頭から大太鼓、小太鼓、鉦、踊り子の順で、太鼓や鉦を鳴らしながら一列で入場し、次第に円形の隊列になります。基本的には大太鼓一人、小太鼓一人、鉦一人、踊り子が10人程度で踊りますが、今回の運動会では広田の方々にも協力をいただき、児童・職員と一緒に踊ったため、約30人で踊りました。歌い手は、踊らず円の外から踊り手の動きに合わせて歌います。

5 保存会や地域との連携の具体

50年以上前から、各集落の踊り等の伝承活動が小学校においても行われていたようですが、毎年、小学生が踊りを踊る仕組みは確立されていませんでした。そこで、平成13年に地域に伝わる伝統芸能を継承・保存するために、平山地区の4つの集落が3年ごとに指導を行っていく仕組みが確立されました。初年度から3年間は、浜田集落の「なぎなた踊り」、次の3年間は、中之町の「ひょうたん踊り」、次が広田集落の「ちくてん」、そして、西之町の「ヤートセイ」

を指導していただいています。

本年度は、広田集落「ちくてん」の1年目となります。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に伝統芸能を伝承し練習する時間を確保しました。しかし、授業中の時間帯は仕事をされている方が多く、広田の方々の協力が難しかったため、授業中とは別に夕方6時からの練習計画を立てました。夕方の練習時は多くの広田の方々が指導に来てくださり、個別指導をしていただきながら児童も職員も覚えることができました。今後も、平山地区・平山小学校合同秋季大運動会にて踊りを披露していきます。

7 取組の様子



【練習の様子】



【運動会の様子】



【児童・職員と広田の方々】

8 参加児童・保存会・教職員等の感想・意見

- 今年初めて、ちくてんの踊りをしました。いつも習う踊りより難しく、覚えるのが大変でした。そして、初めて大だいこという楽器を持って踊ることになり、たいこを打ちながら踊る大変さが分かりました。運動会ではみんなでがんばって伝統芸能であるちくてんを踊れたのでよかったです。(児童)
- 1学期の練習の様子では、本番の運動会までには覚えられないのではないかと少し心配でした。しかし、学校との話合いで練習時間を増やせたことと子供や先生方も一生懸命になって練習したことで、運動会ではとても素晴らしいちくてんを一緒に踊ることができました。(保存会)
- 地域の方々が熱心に指導してくださったお陰で、児童も私たち職員も「ちくてん」を踊ることができました。踊りを通して、平山の伝統文化を知ることができ、また地域の方と交流を深めるよい機会となりました。(教職員)